

# 会 記

## 日本植物分類学会への合流

植物地理・分類学会 会長 綿野 泰行

植物地理・分類学会2017年度大会が5月27日（土）に、金沢大学サテライト・プラザにて開催されました。その総会において、「来年4月から本学会が日本植物分類学会へ合流を行うという」議案が、満場一致で可決されました事をお知らせいたします。

学会の合流に向けた議論の経緯については、2016年春に行った「植物地理・分類学会の将来構想アンケート」の結果と共に、記事としました（綿野 2016）。その後、日本植物分類学会との交渉を開始し、以下のように会議やアンケートを重ね、今回の総会に至ったこととなります。

2016年11月30日	両学会執行部 懇談会（京都）
2016年12月28日	両学会雑誌編集委員 懇談会（京都）
2017年1月17日～2月28日	学会合流に向けたアンケート実施
2017年2月9日	植物地理・分類学会 臨時評議員会（金沢）
2017年3月9日	両学会執行部 合流に関する意見交換会（京都）
2017年4月1日	植物地理・分類学会 幹事会（金沢）
2017年4月23日	日本植物分類学会との合流に関する会員との意見交換会（金沢）

2017年1月～2月に行われた「学会合流に向けたアンケート」の前文で述べましたが、合流にあたって、日本植物分類学会に本学会誌「植物地理・分類研究」の継続を申し入れております。今年3月の日本植物分類学会の評議員会において本件について議論され、「分類」と「植物地理・分類研究」の統合、および「植物地理・分類研究」の名称の継承についての方向性が提案されています。しかし本学会の決定がなされる前に結論を出すのは時期尚早という意見があり、日本植物分類学会が評議員会としての最終結論を出すのは6月以降になると聞いています。日本植物分類学会での結論が出次第、またお知らせいたします。

日本植物分類学会の会費は現在5000円ですが、来年から7000円に値上げされる事が決まっています。「学会合流に向けたアンケート」では“和文誌のみの会員（会費5000円）”を設定する案があることが述べられていました。これは、上記2016年11月の両学会執行部懇談会で行われた議論に基づくものでしたが、その後の日本植物分類学会側での会費についてのシミュレーションの結果、廃案になってしまいました。日本植物分類学会に属さない本学会の会員をなんとかスムーズに合流に導くため、両学会執行部で知恵をひねり、両学会の会計年度の違い（日本植物分類学会が1月～12月、本学会が4月～3月）を考慮して、移行会員については2018年度のみ5,000円に減免する案が浮上りました。この案も、日本植物分類学会の今年3月の評議員会において承認されています（日本植物分類学会ニュースレター No. 65）。

「植物地理・分類研究」の前身である「北陸の植物」が1952年に創刊された事をうけ、2012年大会において60周年記念講演会を福井において行った事を、まだ新鮮に覚えています。あれから5年で、今回の議決に至ったこととなります。ここ2年ほど、会員数の減少が加速しており、会計上の問題からも合流を速やかに行う事を決意いたしました。今後は、日本植物分類学会という新しい場で、「植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野の進歩普及を図り」という目的を果たしていくこととなります。幹事会では、4月の合流までに、今までにアンケート等で頂いた意見を改めて精査し、本学会の会員の希望を日本植物分類学会の方に要望していきたいと考えています。ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 引用文献

綿野泰行. 2016. 植物地理・分類学会の将来構想アンケートの結果と今後の対応. 植物地理・分類研究 **64**: 55-56.